

乳汁の新マイコプラズマ検査体制

根室家畜保健衛生所の平成23年度家畜衛生推進会議資料によると平成22年1月～12月実施された乳房炎原因検査1942頭のうちマイコプラズマ陽性62頭と報告されていましたが（62頭中61頭が病原性の強いマイコプラズマ・ボビス）。ということで根室管内から確実に出ており、注意が必要なのです！

現在当社では培養法によるマイコプラズマ検査を行っています。この方法では、判定に2～4週間ほどを要してしまい、対応の遅れに不安がありました。そこで酪農学園大学の樋口准教授らが開発した迅速簡易診断法を導入することになりました（現在準備中、4月中旬に開始）。これはマイコプラズマの遺伝子を検出する方法で、検査時間を3～5日ほどに短縮することが可能となります。マイコプラズマ性乳房炎の被害を最小限にするためには、

- ① 異常牛の早期発見、
- ② 新規導入牛や預託牛の検査
- ③ バルクスクリーニング（毎月～年3回程度）

が極めて重要とされています

新社屋完成の暁には、日常的にこの検査を行う体制を作ります。

（責任者 T）